

平成30年

季刊

春季号

Vol.65

# 亞東



社会見学（東京中華学校）



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

## 一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増

進を図る。

## 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に

関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに

研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の

紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必

要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の

斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

平成二四年一月六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、平成二五年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成三〇年 春季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷

三頁

目次・協会役員名簿

四頁

二月に「新春互礼会」開催

五頁

二〇一八年、安倍政権の課題と展望

六頁

「社会見学」で東京中華学校訪問

一六頁

事務局だより

一八頁

平成28年5月12日

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長 (理事以外)	1名	玉澤徳一郎			
参与 (理事以外)	1名	橋本 靖男			
会長 (代表理事)	1名	大江 康弘			
副会長 (理事)	4名	山本 順三	張 多	建国 忠和	
専務理事	1名	張 碧華			
業務執行理事	4名	赤松 則宏			
〃		藤山 雅康			
〃		並木 正芳			
〃		柴田 徳文			
〃		笹岡 恭亮			
理事	10名				
崎谷 秀彦	小松 省二	益山 茂	松永理恵子	三浦 信行	伊野 雅晴
山口 裕志	森 康郎	永島 剛士	小山 博史		
監事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一		
事務局		崎谷 秀彦			
		李 孔曉			

一般社団法人 亜東親善協会

## 二月に「新春互礼会」開催

亜東親善協会は二月八日、「新春互礼会」を都内のザ・キャピトル東急で開催した。大江康弘会長は挨拶の中で、日本と中華民国（台湾）が断交し昨年四五年を迎えたが、この間お互いが苦難を乗り越え、真の友人は誰なのか、しっかりと確認し積み上げてきたと振り返った。

さらに、日本で日台交流に尽力している関係者たちからは、「我こそは台湾と一番熱心な活動をしている」という共通の自負心を持っていることが伝わってきており、「この自負心こそが、これまで四五年間を日本で支え合いながら活動してきた結果であり、中華民国（台湾）の皆さんもそれを受け止めてくれた結果だった」と述べ、会員たちも「我こそが台湾の第一人者だ」という良い意味での自負心を持って、引き続き活躍してほしいと呼びかけた。



大江康弘会長の挨拶

台北駐日経済文化代表処の張仁久・副代表は、大江康弘・会長を団長とする当協会の台湾訪問団、日本で学ぶ台湾人留学生の国会見



台北駐日経済文化代表処 張仁久副代表のご挨拶

総務部長、新垣旬子・日本中華聯合總會会長、森田高光・台湾協会理事長らも被災者への哀悼と見舞いの意を表すと共に、それぞれが行っている台日友好交流の状況などを紹介し、さらなる進展への意欲が述べられた。

新春互礼会の前には、政治解説者の篠原文也氏が「二〇一八年安倍政権の課題と展望」と題し講演も行われ、多くの会員が出席した。



篠原文也先生の講演

学など、台日友好交流促進への尽力に感謝の意を表すと共に、今後台日友好の絆がより一層深まることを期待した。

新春互礼会の冒頭では、二月六日深夜に発生した花蓮地震の犠牲者に対し、黙とうが捧げられた。来賓として挨拶した伊東良孝衆議院議員、日本台湾交流協会の柿澤未知・

## 二〇一八年、安倍政権の課題と展望

政治解説者 篠原 文也

ご紹介いただきました篠原でございます。今日は大江さんの縁で二回目のお邪魔をしております。大江さんは今、次に向けたステップを新たに踏もうという所からですから、是非頑張っていたきたいと思いますし、長いお付き合いになります。永田町が無理なら地元の政界でも結構でございます。いなと、永田町が活躍できる能力を持っている方だから、やはりもともと活躍できると思っています。大江さんを今後も応援していきたいと、そのような気持ちで今日は伺いましたので、宜しく願います。

それでは、本題に入らせて頂きます。今お手元にレジュームがありますが、二〇一八年ももう二月ですが一年を占うときに、干支っていうのを私にしています。去年は皆さまもご記憶あると思いますが「丁酉（ひのととり）」なんです。これはどのような年かと申しますと、「ピークを迎えて下りに入る年」と言われています。去年の都議会議員選挙の前から、例の問題で急に安倍政権が支持率を落としていきまして、これは干支の通りにならないかなと思っていたのですが、その後回復しました。ところが、もう一人危ないのがいて、干支通りになった人がおりました。誰だかわか

ると思いますが、小池都知事です。ピークを迎えて一気に下りに入った、干支っていうのは怖いなど改めて思いました。

今年の干支は「戊戌（つちのえいぬ）」なんです。これはどういう年なのかと言いますと、干支というのは「幹」と「枝」があります。「戊（つちのえ）」の部分が「幹」で、十二支の「戌」の部分が「枝」になります。「幹」の方が強く出ると言われておまして、「戊（つちのえ）」がどのような意味かと申しますと、「芽が出て、今年成長して発展する年」だと言われ非常に良い前向きな干支になっております。



す。ところが、一方の「戌（いぬ）」の方が悪く「衰退して滅亡するかもしれない」というような意味で、良いのと悪いのが織り交ざっているのが今年の干支なのです。これは私も皆さま方も同じですが、心がけ一つでどちらにもなりますが、幹の方がやや強いと言われておりま

すので良い年になればいいなと思っております。そのような干支の流れを踏まえまして、安倍政権が今後どのようなようになっていくのかについて少しお話ししたいと思います。

安倍さんの場合は健康問題が前から取り沙汰され、懸念がいつも付き纏っているわけですが、私の見たところ時々お会いしておりますが、まず健康状態は問題ないであろうと思っております。ですが、明日から行く平昌（ピョンチャン）はものすごく寒いですから体調を崩さなければ良いな、と思っております。

安倍さんの持病でもある「潰瘍性大腸炎」は同時に難病とも言われ、つまり完治することは無いので症状を和らげるのが最大限の治療だと言われております。アサコールという薬を使ってこの病氣と若いころからお付き合いしながら安倍さんも今日にきているわけですが、医学の通じた人から聞いた話ですが、この病氣は年齢とともに症状が和らいできると言われているそうです。時々ポツリポツリと症状が悪化する方がおられるそうですが、ほとんどの方が、症状が和らいでいくそうです。安倍さんは今六三歳ですから、そういう面では今後あまり心配しなくても良いのかなという風に思っております。まあ体が健康で丈夫でなければゴルフを六八回もできませんよね。ゴルフは第二次安倍政権になって六年で六八回、第一次安倍政権では短かったので余裕もなかったでしょうから一回しか行っていません。それと海外には次の韓

国を含めて実数で七七か国、延べ一三六か国に訪れていますから、政府専用機を駆使してもそれだけ飛び回っていたら普通はくたびれます。しかし全く疲れている様子も感じないし、安倍さん本人も疲れないうのです。むしろ、専用機の個室でゆっくりするとリフレッシュが出来てかえって体調にはプラスだと本人はそのような意識らしいです。安倍総理の近況についてはこのような所です。

今年の政治課題を考えたときに、政策課題としてはやはりアベノミクスをどう末端まで浸透させるかというのがまだ完成・実現してない。それから、北朝鮮情勢にどう対応していくのが気になる場所であり、もう一つは憲法の改正をどこまで進めるのか、の大きく分けて三つかなと思っております。まずアベノミクスですが、私も地方で講演する機会が多いのですけれども、その中でも企業の経営者の方を相手にすることが特に多いです。地方の中小企業の方などには必ず「アベノミクスの恩恵を感じていらっしやる方は拳手をお願いいたします」とアンケートをするのです。するとどこの会場でも数名手が上がる程度で、逆に「感じてらっしやらない方」は九割くらい手が上がります。これが今のアベノミクスの現状を物語っているのだと思います。ですが、真逆の結果が出た会場が、一か所だけございまして、それは都内の経団連加盟の大企業で講演した時でした。ですから、現在の「円安株高」はアベノミクスの状況をよく表していると思っております。

しかし今年相場が乱高下しておりますけれども、これは調整局面なのかあるいは大きな転換点なのか見てみなければわかりませんが、やはりアベノミクスが地方・中小企業・お茶の間に届くように持つていかなければ国民全体から見ても不満が残る状況に置かれるのではないかとこの風に乗っております。安倍総理は国会答弁でも七四半期連続経済成長プラスと述べておりますが、一方で実質賃金は依然としてマイナスなのです。去年もマイナス0.2%で可処分所得も減っています。円安は物価が上がりますので、家計を預かる主婦からすると結構大変だと思いますが、そのような中でもデフレから完全に脱却したと宣言できるまでに至っていません。宣言するとは、二度とデフレには落ち込まないという確証がなければ宣言できません。一時的現象だけで宣言は出来ません。それが出来るかどうかは、先ほど話した浸透度がどこまで行くのかという所に掛かっているのではないかと思います。今後株価が調整局面を経て、仮に戻ってきたら「戌年だけに戌笑う」となるかもしれませんが、最終的には、地方や中小企業・小規模企業あるいは家計に届かなければ、なかなか皆さんが恩恵を感じにくいのではないかとこの所がアベノミクスについては今年の一つの大きな焦点かなと思います。日銀は、世界の中央銀行の中でも一番金融緩和を緩めないとしていますが、この出口戦略で金融関係を緩めたアメリカも徐々に利上げに入っております。そこのがきちんと達成

されませんと、そのような方向へは舵を切りにくいのではないかと、思っております。

あとは、北朝鮮の問題ですね。これはどういう風に展開するか、確たる自信は私にもありませんけれども、伝えられる情報を総合いたしますと、この七月くらいまでにアメリカに届くICBM（大陸間弾道ミサイル）につける核の小型化（弾頭部分に取り付けるために）を完成させるのではないと言われている、あと半年の間が北朝鮮情勢にとって勝負というか、最大の山場ではないかと。この間にアメリカのトランプ政権が軍事行動に踏み切るのか、あるいは話し合いに持ち込もうとするのか、一つの分かれ目がこの半年間なんじゃないかなと思っております。放っておくとアメリカ本土に届いてしまうものが完成してしまうというわけです。いつも頭に入れておかなければいけないのは、アメリカから見るとやはりアメリカ本土に届くICBMの開発が凍結されたり中止されたりすることが、アメリカ国民から見るとまずファーストなのです。それで、取引を妥協されるとノドンとか中距離スカットが日本や韓国に来るわけで、日本や韓国はどうなのかといえ、日本や韓国が置いてきぼりにされ兼ねないと言っているのは、日本としても絶対に防がなければいけないと思っておりますので、そのあたりの状況も含めて七月までが一つの大きなポイントだと思っております。私はトランプと金正恩の間で直接的な取引が行われる可能性は低いと思っております。

すから、アメリカと北朝鮮の二国間でしか話ができないというような、最後は二人の問題に集約されるのではないかという方もいらつしやいますが、私はそういう睨み合いの構図が続いていけば、場合によっては安倍総理の出番があるかもしれないなと思っております。トランプ大統領と金正恩委員長との間で、圧力をかけ続けて北朝鮮の方から「ちよつと、間に立ってくれよ」と言う状況を作り出すまで、安倍総理は待っているのかもしれませんが。

これはオフレコですが、金正恩が最後に頼りにしているのは安倍晋三だ、という情報もございます。そうすると安倍さんが、電撃的な訪朝でピョンヤンに行つて話を纏めるという場面も荒唐無稽な話ではないかもしれません。言い切る自信はありませんが、そういったことも頭に入れながら北朝鮮の情勢を見ていく必要があるのではないかと思っております。

三番目は憲法改正です。今自民党の中で議論を展開しております。去年の衆議院選挙の時に四項目得だしをしております。一つ目は九条の改正、二つ目は教育の充実・事実上の無償化、それから参院選挙であった合区ですね。島根・鳥取・徳島・高知、これを解消するために各県代表一人は必ず置くという憲法の規定をもうけるべきだという三つ目、四つ目は緊急事態条項です。これは二つあり、テロが起きたり、大災害が起きたときに衆議院の任期が切れていても（選挙に突入していても）任期を延長できるようにすること、私権を制

限して政府に権力を集中して対応することの二点です。今は比較的与野党の同意が得られやすいのは、緊急事態条項の中の衆議院議員任期延長の問題で、私権制限の問題は簡単に折り合いがつかないと思います。というのは、今の法律でも「災害対策基本法」などを駆使すればかなり対応が出来るのです。それから教育の充実・無償化は、与野党で話を纏めやすいテーマかなと思いますが、一番纏めにくいのは九条の改正と言う状況になっていると思います。そして自民党は、三月二五日の党大会までに中間報告のような方向性だけは出そうと毎日毎週のように議論をしているわけですが、自民党のベストシナリオとしては、何らかの方向性をつけて通常国会までに自民党案として提出し、衆参の憲法審査会で議論して頂いて、秋の臨時国会で衆参の3/2の賛成を得て発議する、その後国民投票にかける。国民投票は、国民投票法で「発議の後六〇〜一八〇日後までに行わなければならない」と規定されているわけです。ところが、来年の日程を考えてみると、「天皇陛下の退位」「新天皇の即位」があり、四月には「統一地方選挙」七月には「参議院選挙」があります。また外交的なことで言えば「G20」が日本で開催されますので、国民投票の日程を作るのはなかなか難しいと思われるかもしれません。それならば参議院選挙と同時に行うのはどうか、という意見もありますが、イギリスの「EU離脱」についての国民投票「票」や、イタリアの「憲法改正の国民投票」はいずれも否決



されていますが、その時の状況を見ると全て政権の信任問題に絡められて有権者は投票しているのです。つまり、「憲法改正」や「EU離脱」とテーマが絞られずに時の首相の信任投票と一緒になってしまうので、同時選挙は絶対やらない方がいいと言われているわけです。そのような事も一つ一つ踏まえて来年に行うとすれば、来年の一月早々の通常国会召集前もしくは召集直後で、非常にタイトなナローパスの日程になります。一月の初めしかないと思います。

もう一つは、発議して国民投票にかける四項目を申し上げましたが、野党側からは、知る権利の問題・環境権の問題・地方の主権問題・解散権制約の問題と様々持ち出してくるかと思います。解散権の制約とは何かと申しますと、今解散は憲法第七条の中の天皇陛下が国事行為として内閣の承認と助言をもって行うと一項目あり、もう一つは、憲法第六九条に、内閣不信任案の可決もしくは内閣信任案の否決された場合に総辞職もしくは解散しなければいけない、という二つが解散権の根拠になっています。ところが歴代の解散を見てみると、ほとんどが第七条の解散になっているのです。それは、時の政権が解散権を恣意的に行使できるようにしている項目だから、解散権をしっかりと制約する条項を盛り込むべきだと野党から声が上がっているのです。これは野党だけではなく、衆議院議長を務めた保利茂氏が議長時代に出した「保利見解」の中で、「七条解散の戒め・七条は使うべきじゃない

い、解散は六十九条で行うのが王道だ」という見解も当時から出ており、今後も解散権の問題は議論の対象となっていくのではないかと思っております。

そのような事を俯瞰してみますと、安倍さんが総裁選に参戦されたとしても、九条改正まで、果たして発議・国民投票までこぎつけられるか、大きなクエスチョンマークを持っております。そうすると、国民投票は過半数ですから否決されると当分の間憲法改正は出来ません。また場合によっては、九条改正をもってきて国民投票で否決されると、一項・二項をそのままにして自衛隊の存在を明記すると言う安倍さんの考えだろうと、石破さんのように二項を削除して国防軍をきちんと位置付ける、というどちらであろうと、否決されたら内閣総辞職になり兼ねないテーマであると思っております。

いろいろ考えますと、とりあえず憲法の改正も、一段階として教育の充実や衆議院議員の任期延長の問題など野党でコンセンサスの取りやすいものから発議をして国民投票にかけて混乱を防ぐ。二段階として、安倍さんは九月に再選されますとあと三年の任期がありますから、その間に九条改正を容認するような空気を調整していくことにしばらく時間を掛ける。という二段階でいく可能性が非常に高いのではないかと思います。一段階目の憲法改正も簡単ではありませんが、与野党の合意が得られやすいので、無理して突っ込んだら先ほども言ったように国民投票で過半数を取るの大変厳しい

ですよ。今世論調査見たら憲法改正に賛成の人は過半数を超えておりますが、九条改正に対してはまだアレルギーは非常に強いですから、そのような状況と政治的なりスクを考える和不磨の大典と言われた憲法に穴をあけて改正をしたとなれば、安倍さんの悲願でもありますから少なくとも歴史に残るのではないかなと思います。このような意見を持っている人は一人もいませんが、私はそういう方向にならざるを得ないのではないかと思っております。

安倍政権については、先ほどお話しした安倍さんの体調問題もありつつ海外の外遊もこなしているわけですが、今の安倍政権が四〇%後半から五〇%の支持率を維持している、六年目にしてこんな高支持率を維持している政権は、私も四十数年この世界で仕事していませんがまずないです。なぜなのかと言えば、一つはアベノミクスへの期待感が依然としてあると思いますが、一つは外交です。日米関係を緊密にし、ロシアにもアプローチをしておりますし、日中関係もやっと改善の方向が見えてきました。日韓関係だけが不安定な感じですが、外交全般としては、安倍さんがうまく日本の為に動かしてきたのではないのでしょうか。そのような評価はあると思います。それから北朝鮮の問題もあり、その対応は本当に大変なことですが、国民はやはり安定感・安心というもので時の政権への求心力が高まりますので、政権維持という観点から見ても安倍政権にとってはいい方向に作用しているの

はないかなと思っております。

もう一つは、平成になってコロナと総理大臣が変わりましたけれども、平成三十年現在でなんと一七人目です。安倍さんが今長く政権をやっていますけれども、それまでは二年で交代していたので「そろそろ落ち着いて日本の為をやってくれよ」と国民のボジティブな声と安倍政権が登場した時系列的にピタッと合ったのだと思います。私は以前から「リーダーは時代がつくる」と言ってきましたが、その時代状況に安倍リーダーがピタッとハマったという感じがします。それから皆様も記憶にあると思いますが、何しろ民主党政権がひどかったというトラウマが安倍政権にプラスに作用していることは否めないと思います。

まだアベノミクスの浸透度が足りないので「実感なき景気回復」という言葉が使われますけれども、先ほども話した地方の講演で、今の安倍政権の経済政策と民主党政権の経済政策の評価を聞くと、九割が民主党政権の時よりも良くなったと手を上げます。政治は、絶対的評価というものはありませんから、常に相対的評価で比べてどうだったか、なのです。

今安倍政権を展開するうえで最大のハードルは九月の自民党総裁選で、ここで再選されませんと憲法改正の話もできませんので、政治的に見れば最大の勝負所になるという風に思っております。はつきりしているのは、石破さんは出てきません。野田聖子さんも二〇人の推薦人を集められれば出てく

ると思います。一対一の総裁選挙はまずいので、石破さんが出るなら必ず私もでるとおっしゃっていましたから、安倍さんのサイドからすれば、安倍批判票が石破さんに集中するよりも分散された方が有難いという考え方もたっていますから、野田さんは三年前の総裁選の時、菅官房長官を筆頭に推薦人が切り崩されていますけど、今回は貸すからという雰囲気がありますからおそらく出てくるのではないかと思います。

あとは岸田政調会長がどうするかが大きな見どころになるであろうと思います。基本的に中堅以上のベテランの人たちは安倍さんの禅譲路線のスタンスで三年後の二〇二一年まで待ったらどうかと言っておりますが、若手は、三年後だと河野太郎や小泉進次郎など誰が出てくるかわからないときに禅譲が期待できるのかという声も一方であって、このあたりが岸田さんが悩んでいるところではないかと思います。

石破さんは見ての通り、ちょっと顔が怖いんですね。それは本人も気にしているようですが、それともう一つは、石破さんは政策的に筋をビシッと通していて、九条の改正や地方創世の問題に対しても自分なりのビジョンを打ち出しているところは大変評価するのですが、永田町と言う所は政策だけでは動かないのです。やはり人間関係「G(義理) N(人情) N(涙) + P(パワー)」が大切で、パワーだけではダメなのです。そのような世界ですから、二階俊博幹事長は、一日

に二階建て三階建ての会合をやっているのであなたも少し見習ったらどうかと石破さんには何度も申し上げたことがございます。

今の安倍政権は、二階幹事長・菅官房長官・麻生副総理の三本柱で支えている状況ですが、この三人に共通しているのは六時〜七時、七時〜八時、八時〜九時と時間を分けて、それぞれ行われている会合に顔を出すというのを皆さんやっているのです。ところが石破さんは、一議会終わると、議員会館に戻ったり、宿舎に戻ったり、資料や本を読んだりしているというのですから、これではダメだというのがよく表れたのが二〇一二年の総裁選です。

一回目の投票の地方票では一六五票対八七票で圧倒的に安倍さんに勝っていたのですが、ただ過半数まで行かなかった為、決選投票になりました。今は四七都道府県それぞれ一票として決選投票に入ることになっていたので、地方票の重みが前回よりも増しているのですが、当時は国会議員のみで決選投票を行いました。

いよいよ明日が総裁選の投票日だというときに、当時立候補していた町村さんはご承知の通り脳梗塞で車いすになってしまいました。病院から電話がありました、「いよいよ明日が総裁選だけれども、おそらく石破も安倍も過半数は取れないから決選投票に持ち込まれるだろう。俺はその段階で三位以下でふるいにかけるだろう。すると俺の票が地方票

を抜くと二〇票ほど国会議員から入るから、決選投票になったときにその票をどのように振ったらいいか迷っている」とおっしゃっていました。そこで安倍さんじゃダメですか？と聞いたところ、俺が派閥会長として手を挙げたのに、後出しじゃんけんで出馬をしてきたから安倍は許せん、とおっしゃいましたので、ならば石破さんはどうですか？と尋ねたところ、石破とは、飯を食ったこともないし話をしたこともないから悩んでいる、とおっしゃっていたので、どっちもどっちならば、福田赳夫先生以来の同じ釜の飯を食った仲間ですから、ここは色んな思いを飲み込んで安倍晋三にまとめた方がいいのではないのでしょうか、それが政治家としての筋なのではないのでしょうか、とアドバイス致しました。

他の方にも意見を聞いていたと思いますが、最終的には安倍さんにまとめました。その経緯を安倍総理は知らないと思っただので二〇一二年に総裁選に返り咲いた際、総理にお話しをして町村信孝をどこかで処遇して欲しいと頼みに行つた結果が、衆議院議長になったのだと私は思っています。

一方の石破さんにもこの話をしましたが、結果十九票差で負けたわけで、あと一步のところまで手が届いていただけに町村さんとの付き合いがあれば票がひっくり返っていたという事です。だから石破さんには、G(義理) N(人情) N(涙)が足りなつたということで、今後はそういつたところも気を付けて、エネルギーを使われたらどうかとお伝えいた

しました。

また岸田さんにも同じことをお伝えしたところ一日二回の会合は参加しているようですが、谷垣さんのように会合に一回しか出ないことや会食が何か月も先になるようなことではダメだともお伝えしております。

それともう一つ申し上げているのは、富士山登るには吉田口という大道がある、という言葉です。これは富士山の登り口はいくもあるが吉田口という王道のルートがある、ということ事です。

なぜそのような話をしたかということ、実は昭和四九年の田中政権の時に、三木武夫さんと福田赳夫さんが閣僚辞任をして一気に田中政権はつぶれるのですが、三木さんが先に田中金権批判で飛び出た際、当時大蔵大臣の福田さんが同調するかどうか政局の最大の焦点でありました。間に立った保利茂さんが、自分から飛び出たのであれば賛成するが三木につられて飛び出たのでは次は三木政権になるだけだから、ここは自重して田中の協力を得て次期福田政権を作った方がいい、と示したのですが福田さんの性格上それを振り切つて飛び出た結果保利さんの言うとおりに三木政権になったわけです。保利さんがその説得の際に使った言葉が先ほどの言葉で、三木についていくのは、道なき道を歩むのと同じだと論じられたのです。ですから私が岸田さんに申し上げたのは、先に「反安倍」「非安倍」の中心として先に声を上げたのなら

ば賛成だが、石破さんに引きずられて出馬するのであれば、福田さんの二の前になるから無理はしない方がいいと言いたためにそのような話を致しました。

ちなみに今「永田町の早慶戦」と呼ばれているのはご存知でしょうか。石破さんは慶応で三井銀行出身、岸田さんが早稲田で長期信用銀行出身。どちらも昭和三二年生まれで同年な上に親からの世襲政治家であるというとても似ているわけであります。これがどうなるか皆さん永田町の早慶戦として関心を持っているわけでありますけれども、それぞれに私から先ほどのことを申し上げております。

あとは小泉進次郎と河野太郎です。最近河野太郎が非常に台頭してきました、私も小さいころから彼のことを知っているのですが、河野一郎さんが那須に持っている牧場によく遊びに行ったものです。家族ぐるみ付き合いですので、太郎にはぜひ頑張ってもらいたいという思いは持っておりますし、小泉純一郎さんもあれは大化けするかもしれないと言いつ出したくらいで、外務大臣になったら急速にポスト安倍に名前を挙げてきたというのは、個人的には嬉しく思っています。小泉進次郎は、おそらく三年後以降が勝負になるであろうと思います。彼も相当な玉ですが、少し過大評価されているところがあると私は思います。これからどれだけ泥臭さを身に付けていけるのかだと思います。一方河野太郎は、突破力、行動力、アイデア、構想力も評価するが気配りや気遣い

が欠けていると、口を酸っぱくしてアドバイスしてきました。最近では少しずつに身についてきたかなと思います。その点小泉進次郎は大変な気遣い、気配りができます。こういう人材が出てくるのが自民党なのだと思います。今後どうなっていくのか動向見ていく必要があると思っております。

そろそろ時間ですが、最後に野党の話を一言だけ触れます。今いろいろと分党の問題や希望の党の問題が出ていますが、私に言わせればコップの中の話ではなくて、おちょこの中の話だということを申し上げます。つまり誰も関心がないのです。

去年は、前原さんが右旋回をして中途半端な別れ方になりましたが、別れたからにはそれぞれでやっていくしかなく、衆議院選挙ではそれぞれの公約を掲げてやったわけです。離合集散で多少野党内の小・中分裂は出てきても良いですが、また全体で元の民主党のように戻ろうと民進党は言っているわけです。それではなんの為に選挙を行ったのか、去年中途半端に終わったから元に戻そうというのは、民進党のままで勝てるならいいですが、今までの民進党では勝てないから前原さんがアクロバットに動いたのではないのかと思うわけです。それは国民への背信行為ではないのかとも思っております。ただ結局連合はバラバラに分かれたままではやれないので、是非纏まって欲しいとプレッシャーかけていますから、

そのような事もあるのかと思います。

そして彼らは、去年の比例代表自民党は千八百万票を獲得して、公明党は七百万票です。ところが、立憲民主党は一千百万票獲得して、希望の党は九百万票獲得している。合わせると二千万票で自民党よりも上をいくからもう一度一緒になろう、とよく言っているわけです。これは有権者を馬鹿にしている話ですから、幸いにも有権者は関心を持っていないおちよこの話であるという風に思っているのではないかなということです。

それから最後に一言、安倍さんは一月四日に伊勢神宮参拝を行います、そこでは毎年歴代総理が一筆書くのです。今年、安倍さんは「和を以て貴しとなす」と書かれました。憲法改正や総裁選などいろいろありますから、今年は和をもってみんなを巻き込んでいかなければならないという気持ちが出ているのかなと思います。

この国会でまだ火種はありますけれど、去年みたいに支持率を急降下させるようなうねりはおそらく出てこないのではないかなとみております。やはり人間でもそうですが、体力が弱っているとちよつとした菌でも肺炎にまでなってしまうですが、体力があれば鼻風邪程度で終わらせることができるわけで、今の安倍政権は体力があると思います。

以上でございます。どうも長い間お聞きいただき有難うご

ざいました。

Thank you for your Attention!



## 「社会見学」で東京中華学校訪問

業務執行理事 並木 正芳

亜東親善協会は、恒例の「社会見学」を二月二八日に実施、都内唯一の中華学校である「東京中華学校」を見学しました。

「東京中華学校」は、当会の張建国副会長が校長、藤山（程）雅康業務執行理事が校友会会長を務めた当会会員にもたいへん縁のある学校です。

参加者一八人は先ず、市ヶ谷の私学会館にあるレストラン「フォッセ」に集合して昼食を食べながら懇親を深めた後、徒歩で学校へと向かいました。



校長先生のお出迎え

午後二時のお約束の時間に学校に到着すると、校門には劉劍城校長先生がお出迎えくださいました。

講義室にご案内されると早速、学校について校長先生からご説明をいただきました。

「東京中華学校」は、一九二九年に「東京華僑学校」として小

石川で創立され、戦後の一九四六年には「東京中華学校」となり翌年には中学部も併設、一九四八年に現在の千代田区五番町へと校地を移転しました。

高等部も併設されるとともに、二〇〇三年には日本の大学受験資格も認可され、二〇〇八年からは小中高一貫の学校法人に移行されました。

二〇一七年度の生徒数は三八五人で、中華民国籍八六人（二四％）、中国籍六九人（一八％）、日本国籍二一七人（五五％）、その他アメリカ・韓国等一三人（三％）となっています。



校長先生からご説明

教育の重点策として語学教育があり、中国語はもちろん、日本語、英語も重視され、毎週月曜には英文、水曜には中国文、金曜には日本文の発表を行うなど自分で考え推敲した作文を書くことを重視しています。

また、品性教育の実践と自己管理を重視し、父母に従い、師と友を敬う心を培う倫理道徳教育も重んじてい

ます。

宿題を忘れると放課後にやらされて終わるまで帰宅させないことやテストにおける合格点（小学部八〇点、中高部七〇点）に満たない者は追試に参加して、土曜日の午後に学校で自習及び平日の放課後の補習に義務参加させるなどの厳しさの中で授業の理解度を高め成績を向上させることなども行っています。

在日華僑華人教育を主眼としており、校庭には中華民国国旗の青天白日滿地紅旗が掲揚されているものの、近年は中国語教育への需要の高まりからか日本人の入学が増えており、日本人生徒が圧倒的に多く（帰化割合は不明）、日本の大学へ進学する生徒も増加の傾向にあります。



授業風景



嵯峨健民理事長のご挨拶

ご説明いただいた後は、校内の施設や授業風景なども見学しました。日本と中華民国台湾の経済・文化の懸け橋として卒業生の活躍が今後大いに期待されていることが強く感じられる見学でした。





## 事務所だより

平成三十年度第六回通常総会、講演会の開催

講演会講師 衆議院議員 衛藤征士郎先生

開催日 平成三十年五月九日 水曜日

場所 ルポール麹町 2階ルビー

\*新入会員のご紹介平成三十年一月十六日～三月三十一日

白川浩一 平澤洋一 金谷瑠里子 佐竹伸一 土屋朝裕

## 訃報

株式会社ヒューマックス名誉会長、当協会顧問会員 林 瑞祥氏（はやし ずいしやう）が平成三十年二月六日にご逝去されました。生前林氏（はやし）におかれましては永年に渡り当協会にご尽力を承り、謹んで深謝申し上げます。尚、御供物等の儀はご遺族の意向によりご辞退されております。

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成30年 春季号 (No.65)

発行日 : 平成30年4月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

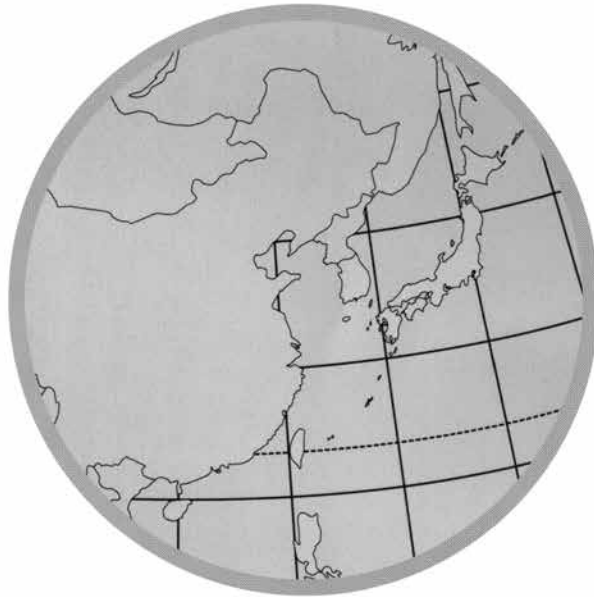
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : <http://www.atoushinzen.com>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

# 東アジアの民主と平和 友好親善にあなたの力を!!



友情と信頼  
一般社団法人 亜東親善協会

只今、会員を募集しております。

## 入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費 50,000 円以上  
賛助会費 30,000 円以上  
個人会費 10,000 円以上



## 台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは  
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航  
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案  
充実の法人プログラム  
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心  
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



[www.china-airlines.com/jp/jp](http://www.china-airlines.com/jp/jp)